



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 松本ビル2階

TEL: 03-5684-3188

FAX: 03-5684-3186

発行人：川手正一郎

編集人：鶴巻 克雄

隔月1回 10日発行

購読料
年額 3,000円

今こそ「友愛」のこころを

理事長就任にあたって

財団法人 日本友愛青年協会理事長 鳩山由紀夫

(財)日本友愛青年協会

の皆様、この度前理事長鳩山安子の後を受けまして、理事長に就任いたしました鳩山由紀夫でございます。

本来でしたら、皆様のお顔を拝し、就任のご挨拶を申し上げるべきところでござい

ますが、機関紙「友愛」の紙面をお借りしてご挨拶をさせていただくことを、まずはお許しいただきたく思います。

(財)日本友愛青年協会は、祖父鳩山一郎が唱えられた「友愛精神」(相互尊重・相互理解・相互扶助)を基軸として活動が続けてまいりました。五十余年の

永きにわたって活動を続け、これらもまた、皆様のご協力の賜物と深く感謝

致しております。

祖父一郎が「友愛」を高く掲げて活動を開始した昭和二十八年は、戦後の混乱期から徐々に抜け出し、現在の経済大国日本を造り上げる黎明期であり、

この時期「友愛」の精神が何より大切と、祖父は考え、それに違ひありません。

それは五十年、その間にはオリンピック、二度の万博と、世界に向けて堂々の日本の姿を示す機会を経て、揺るぎない経済大国の名を得るに至りました。

しかしそれは本当の日本の発展と呼べるのか、私は昨今の日本の状況を見るにつけても、疑念を抱かずに

はいられません。

政治家として日々を過ごす私にとって、国の内なる状況、対外的状況を考える、今こそ「友愛」の精神が必要だと強く感じるのです。

相手を思い、相手を理解し、互いに協力する、人間としてのいわば原点ともいえる姿勢が、今、問われているのではないのでしょうか。

幸い、この度の理事長就任にあたり、姉・井上和子と弟・鳩山邦夫が副理事長に就任してくれました。

私は、鳩山家の一員として、鳩山一郎の孫として、何より人間として、この祖父の残した日本友愛青年協会という宝を、三人が巴を組んで三本の矢の例えの如

く、力を合わせて守り、発展させ、次代へつなげてゆきたいと考えております。

祖父一郎が、一命を賭してソ連(当時)に渡り、日ソ共同宣言調印に調印してから五十年という節目の年に、私が理事長を仰せつ

かつたのも、目に見えぬ縁の所以と感じております。今秋には、祖父一郎の足跡をたどるということで、訪問口も計画されているようです。

具体的には「友愛」の実践こそが、次につながる手段だと思っております。

一つ一つ誠実に進んで参りますので、今後ともよろしく指導・ご鞭撻くださいましすようお願い申し上げます。私の理事長就任のご挨拶とさせていただきます。

第七十二回理事会・第六十五回評議員会

鳩山由紀夫新理事長のもと開催

平成十七年度事業報告・決算報告承認さる

平成十八年五月三十一日(水)午前十一時より本郷鳩山ビル六階にて、財団法人日本友愛青年協会の第七十二回理事会・第六十五回評議員会が開催され、平成十七年度事業・決算報告が行われた。今理事会は、前回の理事会で選任を受けた鳩山由紀夫理事長が、理事長に就任して初の理事会で、鳩山安子前理事長は、理事会の推薦を受け就任した名誉会長として出席した。

新理事長就任

会議は、鳩山安子名誉会長による開会の挨拶で始められた。

鳩山安子名誉会長は、挨拶の中で、多年にわたる役員諸氏、関係各位の協力に謝辞を述べるとともに、新理事長を支え、今後の発展を祈りますと締め括った。

前回(第七十一回)の理事会における選任を受け、鳩山由紀夫理事長が理事長に就任、就任の挨拶を行った後、議事に入った。

鳩山由紀夫新理事長を議長に選出、中川理事より事業報告が行われた。

事業報告

事業報告では、一、軽井沢友愛山荘事業に於ける利用状況について。

一、国際協力機構(JICA)青年招へい事業の受入れ事業。

一、日中緑化交流基金での中国植林の現状視察及び新規植林地の訪問等。

一、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催

一、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催

一、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催

一、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催

一、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催

一、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催

一、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催

一、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催

一、姉妹団体・オーストリア勤労青年連盟(OJAB)との受入、及び派遣の事業報告がなされた。

十七年度の事業報告を受け、十七年度決算報告が行われ、奥住、田辺両監事から監査報告がなされた。

監事から監査報告を受け、理事会出席者全員により、十七年度事業・決算報告が承認された。

「日ソ共同宣言調印五〇周年」記念事業

最後に「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業」の一環として、日口友好フォーラム参加訪問団結成の企画が提案された。

この訪問団は、学生を含む一般で結成、五十年前、一郎先生がモスクワを訪れた時期と時を同じくしてモスクワを訪問し、一郎先生の偉業を改めて讃えるものである。同時に、日口友好フォーラム参加を始め、モスクワ大学との交流など、次代の日口関係を深める一

友愛時評

▼最近、「格差」という言葉が良く使われるようになった。普通格差というと、経済的な意味にとらえられてきたが、最近では社会的、文化的な場合にも使われるようになって、範囲がかなり広がっている。▼考えてみると人間の間に格差があるのは当然である。この問題は、格差を意識するしかないかの問題であって、それは「平等」の問題でもある。平等の問題も、プラトンからマルクス・エンゲルスなど考え及ぶと、私有財産を認めない共産主義などいろいろ複雑なことになる。それはいまや教育格差から文化格差、環境格差、さらに体力格差になると、問題は際限なく広がりがきりなくなる。共産主義によって、一九九一年のソ連消滅によって、イデオロギーとしての迫力を失いつつある。一生懸命働いても、働かなくても「配分」は同じということであれば、働かないほうが楽だということ、人間「二万年」の経験から学んだ、ということだ。▼したがって人間がそれぞれの働きに応じて「格差」のある配分を受けるといふことは、止むを得ないといふべきだろう。むしろ格差があるから勉強したり、働いたりするとも言えよう。しかし、努力しても生活がさっぱり改善しない、または出来ない人がいる。そういう時こそ国家が救済や救助の制度をととのえる。制度に誤りや欠陥があれば、それを正し、制度の行き届かぬところは、隣人が行政機関に働きかけなければならぬ。それこそ友愛活動そのものである。

鳩山由紀夫理事長



鳩山安子名誉会長



井上和子副理事長



鳩山邦夫副理事長



日ソ共同宣言制定書調印50周年 日本友愛青年協会 記念事業

第4回 勉強会開催のお知らせ

最後の勉強会には、締めくくりとして在日ロシア大使館から、講師をお迎えしご講演をいただくこととなりました。ロシア側からみた日本、両国の歴史的背景を聞く好機です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。詳細は友愛事務局までお問い合わせ下さい。

日時：平成18年9月12日(火)

午後6時10分～

参加費：無料

場所：鳩山会館

電話03-5976-2800

講師：在日ロシア大使館・

広報担当官(予定)

当時のニュース放映も用意され、熱心に講演。サルキンフ教授



「お話を伺うのが楽しみです」と鳩山邦夫先生がご挨拶



第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

サルキンフ教授を迎え盛況に

第二回勉強会

五月九日(火)六時十分より、鳩山会館において、第二回勉強会が開催された。今回の講師は、コンスタンチン・サルキンフ教授。ロシア科学アカデミー東洋学研究所特別顧問・所長を務める方から、日ソのこれからについてお話をいただくという、貴重な講演が実現した。

見事な日本語で

サルキンフ教授は、「日本語が上手」と表現することが憚られるほど、日本語に精通しておられる。講義は、終始解りやすいはつきりとした日本語で行われ、その内容から「日本に精通」しておられることが、十分に伝わってきた。ご参加の鳩山邦夫先生も、大きく相づちを打ちながら聞き入っておられた。

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

第一人者の講演
ロシアにおける東洋、特に日本研究の第一人者か

日ソ国交回復の今日的意義

2

法政大学教授
下斗米 伸夫



日露戦争のトラウマ

前回は、世界の社会主義のリーダーであった「スターリン」に話が及んだところで終わりました。この続きからお話致します。

スターリンという人は、実は日本に対して誇張した、危機感を持っており、露露戦争のトラウマがよみがえりました。なかでも昭和六年、満州事変が起きます。日本人の意識は、中国に向いていてと考えられますが、スターリンは、日本軍はそのままシベリアまで来るのではないかと、いう危機意識を持ちます。ロシア人は日露戦争で我が国をやつた「サムライ」の国ではないかといった意識を持っており、それは、当時誰も気づかなかったのですが、現実の日本の脅威というよりも、満州事変の危機がスターリンの社会と重なったため起きたことだと、不安が背景にありました。ゴルバチョフ大統領はその昭和六年生まれ、ロシア南部のコサック農民の出ですが、あのと時村の子供の三分の一は餓死したといっています。当時

のソ連は、最近の北朝鮮さながらのひどい状況にあったようです。実は極東でのソ連の軍拡が原因で、すべてが日本との戦争準備のために費やされた結果でした。

ロシアという国は、頭はヨーロッパに向いていて、体はアジアにあると、こういうふうなイメージしていただくのが、頭というのは、つまり思考やイデオロギーはマルクス主義やキリスト教、ただし正義というキリスト教ですが、しかし、体はアジアにある。したがって、いろいろな意味で、アジアのことも考えるを得なかつたということですね。

モロトフ外交と東郷 さて、そのスターリンのもとで外務大臣を務めたモロトフという方がいます。名前はご記憶の方もあるかと思いますが、このモロトフ外務大臣と交渉したのが、東郷茂徳という第二次世界大戦前後に活躍するソ連通の有名な外交官です。

モロトフと東郷は、日本とソ連とは戦わないという話し合いをおこないます。両者はお互いに尊敬しあひ、東郷が東京裁判でA級戦犯とされながら死罪を免れたのはモロトフが助けたといわれています。

第二次世界大戦前後には国際政治の危機は頂点に達し、昭和十四年の独ソ不可侵条約以降、敵味方関係は猫の目のように変わり、「同盟ゲーム」が起きます。その中でもソ連は、日本と戦わないということを決め、昭和十六年四月には中立条約を結びました。しかしその直後の六月にドイツはソ連を攻撃し、独ソ戦が始まりました。

日本が真珠湾を攻撃したのは昭和十六年十二月ですが、同盟関係はまた変わり、その三週間後にイギリスの外務大臣アーデンがソ連にやってきました。アメリカとイギリスとソ連が新しい同盟になったわけですね。そのころ、ソ連外務省の中では、戦後のアジアをどうするかという構想をもう既に考えておりました。

十二月二日だったと思いますが、ソ連外務省のロゾフスキー次官が英国外相に對し、日本をどうするか。英米ソの経済をあわせれば日本の敗北は必至だと考えていたわけですね。

しかし、「ソ連は日本と戦わない。ソ連はドイツと戦っているから。日本はアメリカと戦っている」というのがソ連側の認識でございました。早晩日本は負ける。そうすると多分中国はアジアで大国になる、というふうな十二月のソ連の外務省のメモは最近明らかにされましたが、伝えております。

「スターリングラード」という映画がありました。あそこでもドイツ軍がモスクワで冬将軍に負けました。ソ連は、もうドイツは敗北必至になります。一九四四年一月に、ソ連の大連合は、どうやって戦後処理をするかという議論を本格化し始めます。そのときのソ連外務省のマイスキーという次官メモで、「日本は負けるけれども、ソ連は日本とは戦わない。そして中国では、中国国民党と我々が我々にとってのパートナーになる」ということを考えていたことが解つてきます。

戦争の影響もあり、英国は力がなくなっていく。したがって、いづれにせよ、アメリカがアジア、太平洋にやってくる。しかし、中国ではやはりソ連と組む蒋介石率いる国民党というものが重要になるだろうというふうな、ソ連側は見ておりました。

そんな折、アメリカは、対日戦争の被害を、これ以上拡大したくなかつたのですから、ソ連側に対日参戦してほしいということを要請しました。したがって、一九四五年五月にドイツ軍が敗北したころには、一七〇万のソ連軍がいわゆる昔の満蒙国境にいて、そして時期をうかがって四月から七月にかけて戦争準備をしました。

しかし、その間に実は大きなことが起きます。アメリカで、ルーズベルト、にかわつてトルーマンが大統領に就任します。ルーズベルトと異なつて、トルーマンはもうちょっとソ連に対して厳しい人でありました。そして、もう一つは、ご承知のように核爆弾をつくることに成功しました。一九四五年(昭和二十年)八月というの、いろいろな意味での世界の転換期であつたわけですが、アジアにいる私どもの観点から見ると非常に重要なことがございました。

それは、先ほどのスターリンとアメリカ政府との約束に、従つて、参戦しないと千島を引き渡さないということから、ソ連が対日参戦するわけでございます。

日本にとってはご承知のようにほとんど不意打ちだったわけですね。直前に、例えば海軍ですとか、近衛元首相を中心に、ソ連に仲介を頼むという話もあったわけですが、まづいかなかつたわけでございます。

もう一つ重要なことがございます。広島・長崎に落ちた原爆はだれに向けられていたか。これは次にソ連に使われるだろうとスターリンは考えた。そして、それはそんなに間違つてはいませんでした。アメリカ軍の中に、次はソ連に使うという机上の計画はございました。したがって、ソ連は新しい爆弾をつくらなければいけないと、スターリンは考えるわけですね。

ソ連におけるウランの不在・ウラン獲得戦略 ところが、あの資源大国のソ連に、核爆弾をつくるウランと云々というものが当時あまり発見されていなかったのです。

「ウランがない」といいますが、ソ連とアメリカはいずれも次の戦争の勝利者になるというふうな考えでアメリカは、スターリングラードの勝利以降、ソ連にウランを提供しなくなりました。そうするとソ連は慌てて占領地域でウランがとれるところを探します。実は一九四七年になつて中央アジアでとれるようになってきます。

これは日本にとっても運命的なことではございまして、四五年秋スターリンは、アメリカとの同盟関係はそろそろチヤラにしようよということ、を、ハリマン・アメリカ大使にいいます。

そして、一九四五年十二月、モスクワ外相会議で、アメリカ、イギリスとソ連でございまして、実際はアメリカとソ連の話し合ひで、朝鮮半島は二つに分け信託統治にする。そして、日本はアメリカの支配に服する。つまりマッカーサーが完全に抑える。そして、ウランをのどから手が出るほど欲しい東欧はスターリン、ソ連の支配下にする。この取引がなされます。これが実は冷戦という仕組みの本当の理由だったのです。

アジアの重要性 そんなことから、日本はアメリカの占領下にある。ただし、千島列島にソ連の一七〇万の軍隊の一部がやってくる、ということになったのです。

次回は中国革命に絡むお話をいたします。(つづく)

夢のような体験をウィーンにて

国を越えて結びつく心

松井亜希



初めてのヨーロッパ
去る三月八日から十日
間、私はウィーンへ行って
参りました。私がウィーン
で体験した出来事も、今で
は夢か幻ではなかったのか
と思うほど、あつという間
の十日間でした。

私にとっては初めての
「ヨーロッパ渡航」です。

音楽を学んでいて、私の年
（二十四歳まで）ヨーロッパ
へ行ったことがない人は珍
しいくらい、今は多くの学
生が休暇を利用して渡欧し
ています。私の場合は、思

いがけない「友愛ドイツ歌
曲コンクール一位の受賞」
があり、さらに付随しての
渡欧がなかったのです。
しかし、受賞から出発ま
で期間は短く、しかも演奏
会出演をも兼ねていました
ので、その準備は慌ただし
いものでした。

素晴らしい出会い
ウィーンで迎えてくれた
のは、素晴らしい出会いで
した。今回伴奏してくださ
ったウィーン在住のイタリ
ア人ピアノリスト、グレイ
タ・ベニーニとの出会いで
たもので、私の内的スケー

ルを大きく、豊かなものに
してくれました。
永い時をかけて育まれて
きた西洋音楽、その歴史と
文化の中で生きている人の
感性やアイディアは私にと
って新鮮で、非常に刺激的
なものでした。そんな彼女

との練習は本当に楽しく、
幸せな時間でした。
ウィーンでのコンサート
そして、ウィーンの人々
と共有したコンサートの時
間は、その出会いと同じく
素晴らしいものでし
た。私は歌で彼らに語りか
け、彼らは表情や拍手で答
えてくれました。私のドイ
ツ語も未熟であるだろ
うに、私の歌を喜んでくれ
ました。そして、とても嬉
しいことに日本歌曲を愛し
てくれました。

音楽がつながる
日本の音楽や演奏する日
本歌曲について英語で彼ら
に説明しました。すると緊
ぎったのを感じました。国
や言葉が違えども、合い通
じる心が確かにあるのだと
感じ、とても嬉しく思いま
した。この体験は生涯忘れ
ることはないと思います。
私がこのような貴重な体
験をすることが出来たのは、
姉妹団体オーストリア勤
労青年連盟のおかげです。心
より、心より御礼を申し上げ
ます。

写真は、左から、OJAB
副会長・事務局局長ウィルハ
ム・ベルコヴィチ氏、松井亜
希（著者）、OJAB会長エ
ドワード・シュスラー氏、本
協会評議員島崎照代氏、O
JAB副会長・副事務局局長
ヨーゼフ・ヴィンマー氏

OJAB今秋六〇周年記念式典開催

姉妹団体の慶事を喜ぶ

本協会と姉妹団体である、オーストリア勤労青年連盟（OJAB）
が、今秋創立六〇周年を迎えます。この慶事を喜ぶとともに、今後も友
好関係が良好に継続されていくことを願ってやみません。
六〇周年の記念式典に参加される、本協会評議員で、「友愛ドイツ歌
曲コンクール」開催にご尽力いただいている島崎照代先生から、式典参
加のお誘いをいただきました。ここに紹介し、皆様へのご案内といた
します。

日本友愛青年協会評議員

島崎照代

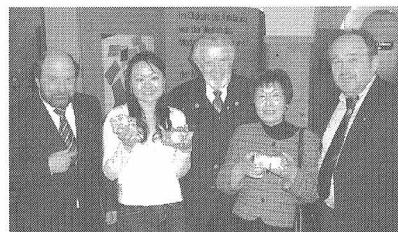
一九六二年クレーンホルフ・カ
レルギー伯爵から、オーストリア
勤労青年連盟（OJAB）のご
紹介を頂いて以来、OJABと
本協会の交流は四十年以上にわた
っております。一九六六年には、
姉妹団体としての協定が交わされ、
様々な交流事業を通じて、強い絆
が結ばれてまいりました。

その交流の中で「友愛ドイツ歌
曲コンクール」入賞者の派遣が一
九九一年から始まり、ウィーンに
於ける音楽会開催では多大な協
力を頂いております。
また昨年から青少年受入の実
践として、今度は、OJAB音
楽コンクールの入賞者の受け入れ
も本協会の事業として実施される
こととなり、音楽文化の交流へと
発展してまいりました。

私も両団体の更なる発展と交流
に、微力ですがお手伝いできれば
と願っています。

本年九月には、姉妹団体であ
る、OJABが創立六〇周年を迎
えます。来る九月二五日、「ヨーロ
ッパハウス」にて、OJAB創立
六〇周年式典が開催されます。こ
のヨーロッパハウスは、OJAB
の創始者B・ヴィンマー氏の所
有していたお城で、現在は学生
寮・セミナーハウスも併設され、
広い素晴らしい施設です。OJ
ABのご好意で、この施設への宿
泊も可能となりました。

せび、皆様にもモーツァルト生
誕二五〇年記念年を賑わっている
ウィーンに足をお運び頂き、私と
共に式典にご参加いただきたくご
案内させていただきます。
詳しくは下記をご参考の上、ご
参加ご検討ください。



〜オーストリア勤労青年連盟
創立六〇周年式典〜
日時：九月二五日（月） 午
後四時
場所：ヨーロッパハウス
参加費：航空費実費（約十五
万円・個人旅行としてご参加
ください）
宿泊先：ヨーロッパハウス
（九月二四日・三〇日までO
JABのご招待で無料）
締切り：七月二五日（火）
問い合わせ：友愛事務局まで
ご連絡ください。事務局連絡
先は、「友愛」表題下の連絡先
をご参照ください。



平成十八年度文部科学大臣奨励賞

～友愛ドイツ歌曲（リート）コンクール参加者募集～

日時：一次予選：10月16日（月）／二次予選：10月18日（水）

本選：11月24日（金）

会場：牛込笹塚区民ホール（一次）

旧東京音楽学校奏楽堂（二次・本選）

受付期間：9月20日（水）～10月4日（水）必着

募集要項をご希望の方は、80円切手3枚を同封、住所・氏名を明
記の上、本協会事務局（上記枠内参照）までお問い合わせ下さい。

また、ホームページから申込書をダウンロードすることも出来ます。

<http://www.yuaiyouth.or.jp>

日ソ共同宣言議定書調印50周年

日本友愛青年協会 記念事業

訪口団参加者を募ります!!

2006年は、故鳩山一郎元首相が病身をおしてソ連（当時）へ渡り、「日ソ共同宣言議定書」に調印してから50年の節目の年です。日ソ友好の架け橋の礎を築いた鳩山一郎先生の偉業を讃え、これからの日ソの友好促進のために、(財)日本友愛青年協会では、記念事業の一環として、訪口団を結成し議定書の調印が行われた10月19日にモスクワを訪れることを中心に企画を作成しました。モスクワで開催される「日ソ友好フォーラム」に参加し、ロシア21世紀委員会（議長：ルシコフモスクワ市長）から贈られる鳩山一郎先生の銅像贈呈式（目録）に立ち会うなど、日ソ友好行事に積極的に参加します。同時に、ロシアの文化・芸術に触れる機会も設け、サンクトペテルブルグも訪問します。また、モスクワ大学訪問など、交流の機会も設けました。

期 間 平成18年10月16日（月）～10月22日（日）

6泊7日（機内泊を含む）

訪 問 地 モスクワ及びサンクトペテルブルグ

参加予定人員 学生：約20名 一般：約15名

参加経費 約292,000円（学生には参加補助給付があります）

※（原油価格高騰に伴い、燃油特別付加税料金に若干の変動がございますので、予めご了承ください）なお、次の費用は含まれません。パスポートを取得経費、個人加入の各種保険料金、集合地までの往復交通費、本人の責に帰すべき疾病、事故による治療費、その他個人的費用。

応募方法 参加希望者は、申込書、写真（2葉）を事務局にお送りく

ださい。（参加申込書は事務局に用意してあります。また、友愛ホームページ <http://www.yuaiyouth.or.jp> からダウンロード出来ます。

申込締切 平成18年7月31日（月）本協会事務局必着

その他 スケジュール詳細に関しまして現在調整を進めています。参加申し込み後、旅行手続きに関しては、取り扱い旅行会社の日本通運株式会社よりご連絡させていただきます

問い合わせ及び参加申込書提出先

財団法人日本友愛青年協会 E-mail: yuai@qj8.so-net.ne.jp

〒112-0002 東京都文京区小石川1-10-13 松本ビル2F

電 話 03-5684-3188 FAX 03-5684-3186

日ソ共同宣言議定書調印五〇周年記念 『鳩山一郎・薫日記』を読む

川手正二郎

第四回

鳩山一郎先生が、日ソ共同宣言に調印されたのは、昭和三十一年十月十九日のことである。当時の国際状況、日米冷戦状態でのモスクワ行きは、飛行機を乗り継ぎ、大げさではなく地球を半周しての厳しい旅程であった。そしてや病身にあるながらもモスクワ行きは、「鳥はくなくならないが、人の命には限りがある」との思いからに他ならない。時の総理としての使命感も大いに起因していたとは思いますが、さらに強く一郎先生を奮い立たせたものは、熱き思いであった。それには相互理解、相互尊重、相互扶助の友愛精神が基盤として厳然と一郎先生の中に存在していた所以である。

一郎先生の熱き思いを形成するに、薫夫人の存在が大であったことはいうまでもないが、若き日の一郎先生を知る縁となる書、『若き血の清く燃えて』鳩山一郎から薫へのラブレター―(講談社刊)を読むと、一郎先生がいかに情熱の人であつたかを垣間見ることが出来る。

また、一郎先生は、ピアノの音色を好み、美しいものを讀めるロマンチストでもあった。その証しは、『若き血の清く燃えて』の中に随所に見て取れる。

制が好きだとアスボンさんといひ合いました。何しろ半分覚えなかった英語の事ですからなかなか思うように話す事が出来ませんでした」と記している。

当時一郎先生は、東京帝国大学英法科の学生であり、英語を話すということに「半分覚えなかった」と表現しておられる。(しかしそれにしても「節制と克己」などという難しいテーマを、英語で話し合うなどとは、恐れ入った出来であると思うのだが)。

やがて時が移り、明治三十九年八月十七日付けの書簡では「かおるさんに願うのは、早く英語をどしどし読む様になれん事です。どうしてだと言えは気高い小説が楽しめるからです」と、既に英語の小説を読み、

友愛クラブ

友愛青年同志会と私

佐々木恵美子

機関紙『友愛』に掲載するから、原稿を書くようにと言われましたが、仕事でも現役を退き、現在は何もしていない私にとっては大変な作業でした。考えても思い付かないので、記憶に残る昔のことを書く事になりました。

思えば「友愛」も五十年をすぎ、その間に名称が「友愛青年同志会」から「友愛青年連盟」となり(昭和四十二年八月に、三十五歳以上の会員は「友愛

感動を覚えたことが何え。なんとという勤勉ぶりであり、なんとという素晴らしいオの人であるうと驚嘆せざるを得ない。

友愛婦人会だより

6月13日 平成18年度総会開催
新橋演舞場地下広間に集う

うっとうしい毎日が続くなかではありましたが、六月十三日(火)「十八年度第一回友愛婦人会総会」が新橋演舞場地下の広間にて行われました。

珍しい会場ですが、それには訳があります。総会終了後に、同劇場で演じられていた「皇女和宮」の舞台を観る楽しみが後に控えていたのです。

その前に、十七年度の決算報告など、大切な総会の会議が開かれました。

婦人会の行事のみならず、友愛の活動で感動を覚えるのは、人と人との出会いがこんなにもすばらしく、心を豊かにしてくれるものかと思える事です。



(友愛婦人会記)



写真上は、昭和四十七年二月十一日付「東京タイムズ」ニュース特集「地球を回る鳩山友愛」全面記事で紹介された、当時の本部。筆者はこの貴重な新聞記事を所蔵、今回本協会に提供いただいた。

昭和三十九年一月には、第六回日本青少年海外派遣で、オセアニア班に参加しました。またこの年十月七日に文京区内有志の方々のご尽力で、鳩山一郎先生・薫夫人ご夫妻の銅像が完成し、護国寺において除幕式が行われました。

昭和三十九年、友愛十五周年記念事業として欧州への旅が実現しました。四十九年、迎賓館の見学、五十年には武道館で開催された、昭和天皇在位五十年式典にも参列いたしました。



筆者が毎年「雛飾り」として飾る「友愛」関連の品々。一郎先生の書、威一郎先生の書、メダルなど筆者の思いがこめられた雛飾り